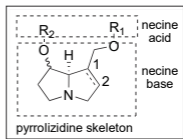


21PO-am001S

Pyrrolizidine アルカロイド Otonecine の不斉全合成研究

○金澤 修平¹, 小暮 紀行¹, 北島 満里子¹, 高山 廣光¹ (千葉大院薬)

[目的] Pyrrolizidine アルカロイド類は、necine 塩基部位と necine 酸部位がエステル結合した骨格を基本骨格とする構造を持つ。本アルカロイドは、日本で食用とされている山菜や野草類にも含まれている一方で、1位2位間に二重結合を有するものは肝毒性などの高い毒性を示すことが知られている。そこで、その含有実態調査に用いる分析用標準試薬の供給を目的に、本アルカロイド類の短段階での不斉全合成を目指す事とした。まず、Otonecine (**1**) を最初の合成目標とし、研究に着手した。



[方法・結果] 既知の光学活性なラクトン **2** より 4 段階を経てエノン **3** を得た。Hoveyda-Grubbs 触媒を用いた閉環メタセシス反応により 8 員環化合物 **4** を得た後、4 段階を経てアミン **5** を得た。現在 **5** より **6** への変換を検討中であり、その詳細も合わせて報告する。

